

弓達 秀樹 議員



一問一答方式

① 市民文化会館建設事業

市民文化会館建設事業について

問 市民会館建設計画ではPFI方式の導入を検討すべきと考えるがどうか。

答 PFI方式の導入については、現在、基本構想策定に向けて取り組んでいます。市民の皆様が新しい施設をどのように利用したいのかなどのご意見を踏まえ、施設の目標、コンセプト等を検討しているところです。

その後、基本計画策定段階で、基本構想で策定された目標及びコンセプトを基に望ましい維持管理、運営手法、PFI方式を含む整備手法に

ついてメリット、デメリットを比較しながら慎重に検討したいと考えています。

問 竣工に至るまでのタイムスケジュールはどうか。

答 今後、基本計画策定時に整備手法について検討し、その上で整備スケジュールを提示します。現時点での想定スケジュールは、基本計画策定に1年、基本設計と実施設計で3年、敷地造成等の期間を含め施工に4年、開館準備等で1年弱の期間を想定しています。

現在の市民会館は老朽化していますので、新たに建設する市民文化会館は将来を担う子どもたちに芸術文化に触れる機会を創出するとともに、各世代が気軽に交流でき、市民の皆様にとって居心地よく利用していただける施設となるよう財政状況等を考慮しながら鋭意進めたいと考えています。

問 市立博物館は大洲城近辺にあるべきと考える。必要最小限のスペースで博物館として市民会館跡地付近に整備することが肱南地区の観光により一体感をもたらすと思うが、今後の大洲城周辺整備の考えは

どうか。

どうか。

答 現在の市民会館は、城山公園の都市計画公園区域内に位置し、跡地の利用は次期城山公園整備事業の柱となるものと考えています。城山公園は、平成15年度から公園整備事業に着手し、現在は旧大洲児童館跡地の西側の石垣改修を進めています。今後は奥御殿跡などの広場整備を進める予定で、市民会館の移転までには整備が完了できるよう進めています。

跡地利用は、広場や大型バスが乗り入れ可能な駐車場、進入道路の整備等の城山公園全体整備計画の中で関係機関と協議しながら検討を進めたいと考えています。

市民会館跡地の博物館整備は、歴史や文化振興の拠点となるとともに、市民や観光客の交流の創出につながり、博物館と観光施設で生ずる相乗効果によって肱南地区の活性化が期待できるものと考えています。今後、大洲市公共施設等総合管理計画や大洲市歴史的風致維持向上計画などを踏まえ、既存の博物館施設の将来的なあり方を整理し、博物館の移転改築を総合的に検討したいと考

えています。

今後の大洲城周辺整備については、肱南地区は歴史文化遺産が数多く残り、うかいやいもたき、カヌーやSUPなど観光の拠点となっている地区です。3月に国の登録を受けた肱川かわまちづくり計画で、肱南、肱北地区を文化・歴史ふれあいゾーンに位置づけ、かわとまちをつなぎ歴史的な町並みを感じてもらいながら、大洲城や臥龍山荘などの観光資源を回遊できるゾーンとして観光客の集客及び地域の活性化につながるような基盤整備を計画しています。

また、肱南公民館の整備では、大洲城下や肱川沿いの立地を活かしたまちづくりの拠点として活用できるように検討しています。

大洲城周辺の歴史や文化、面影が残る町並みを地域資源として活用するとともに、先人から受け継いだ貴重な地域の財産をよりよい形で後世に残し魅力あるまちづくりをすることで地域活性化に努めたいと考えています。